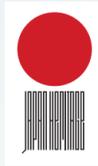




「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅」 ～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)～

ストーリーの概要

日本初の「旅ブーム」の火付け役は、十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」であり、歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵であった。「滑稽さ」「怖いもの見たさ」そして、美味しい「名物」に引き寄せられるのは人の世の常。日本の「ガイドブックの原典」とも言われる「滑稽本」「浮世絵」に惹かれ、自由な移動が制限される江戸時代でも人々は物見遊山の旅へいそいそと出かけて行った。弥次さん喜多さんの「旅の楽しさ」は今も駿州で体験できる。富士山を仰ぎ見ながら江戸時代の「ガイドブック(道中記)」を片手に「東海道五十三次」の「真ん中」、駿州を巡る旅に出よう。



「旅ブーム」の火付け役

日本で初めて「旅ブーム」が起こったのは、今から約二百年前の江戸時代後期。当時は、参詣や治療を目的とするもの以外、自由な移動が制限されていました。しかし、そんな中でも、多くの庶民が、参詣や治療の旅にかこつけて、行楽の旅へと出掛けていきました。そのきっかけとなったのが、十返舎一九が書いた滑稽本「東海道中膝栗毛」や歌川広重の描いた浮世絵「東海道五十三次」でした。



滑稽本は駿府出身のお調子者が主役

一方、浮世絵とともに広く人気を集めたのが十返舎一九が書いた滑稽本「東海道中膝栗毛」でした。物語は、府中(静岡市葵区)出身の弥次さんと、江尻(静岡市清水区)出身の喜多さんが主役。江戸から厄落としての旅に出かけた2人の道中での様子が、宿場の人々や景色、名物などを織り交ぜながら挿絵とともに面白おかしく書かれていて、この地域の宿場や、峠で起こった滑稽なエピソードなども登場します。この道中記は、読者の旅情を誘い、多くの庶民が「東海道中膝栗毛」をガイドブック代わりに、旅へと出掛けて行きました。

花の都パリの画家たちも浮世絵から日本への旅を夢見た

浮世絵は江戸時代に流行した日本絵画の一つで、名所絵だけでなく、美人画や芝居絵、春画など、さまざまな題材で当時の風俗が描かれています。今のようにテレビや映画がない時代、浮世絵は大衆娯楽や大衆メディアとして多くの人々に広く親しまれました。中でも江戸時代の後期に描かれた、葛飾北斎の「富嶽三十六景」や、歌川広重の「東海道五十三次」などの臨場感あふれる名所絵(風景画)は、日本人だけでなく、海外の芸術家をも魅了し、日本という見知らぬ地への憧れを駆り立てました。

浮世絵や滑稽本に描かれた風景が今も楽しめる場所

藤枝市、静岡市の旧東海道沿いには、浮世絵や滑稽本に描かれた風景や建物、食べ物などが数多く残り、地域の歴史や文化として大切に引き継がれています。皆さんもこの日本遺産のストーリーを巡る旅に出掛けませんか。そこでは、江戸時代から多くの人を魅了し続ける絶景や、弥次さん喜多さんが味わった滑稽な出来事に会えるかも。藤枝・静岡の歴史的魅力を、ぜひ、体感してください。

交通アクセス

Access Guide



静岡市へは 東京駅・名古屋駅から「静岡駅」まで東海道新幹線(ひかり)で約60分
 富士山静岡空港よりバスで約50分
 東名高速道路「静岡IC」「日本平久能山SIC」「清水IC」
新東名高速道路「新静岡IC」「新清水IC」「清水いはらIC」

藤枝市へは 静岡駅から「藤枝駅」まで東海道本線で約20分
 富士山静岡空港よりバスで約30分
 東名高速道路「焼津IC」より約15分
新東名高速道路「藤枝岡部IC」

お問い合わせ

駿州の旅日本遺産推進協議会
【事務局】静岡県藤枝市街道・文化課 TEL 054-643-3036 FAX 054-643-3327
静岡県静岡市観光政策課 TEL 054-221-1310 FAX 054-221-1312

観光・宿泊などに関する問い合わせ先

藤枝市観光協会
TEL 054-645-2500
<https://www.fujieda.gr.jp>



(公財)するが企画観光局
TEL 054-251-5880
<https://www.visit-shizuoka.com>



「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅」 ～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)～

駿州の旅日本遺産推進協議会



旅の原点に出会えるまち、駿州

日本初
「旅ブーム」を起こした
弥次さん喜多さん
駿州の旅

滑稽本と浮世絵が描く
東海道旅のガイドブック
(道中記)



東海道五拾三次之内由井庵埋瀬(静岡市東海道広重美術館蔵)



丸子宿丁子屋



東海道五拾三次之内駒子名物茶店(静岡市東海道広重美術館蔵)



岡部宿大旅籠柏屋

江戸時代、日本で初めて起こった旅の大ブーム。

そのきっかけは滑稽本「東海道中膝栗毛」や浮世絵「東海道五十三次」に描かれた美しい風景やおいしい名物でした。かつて多くの庶民を旅へと誘った絶景や名物、宿場の風情は今もなお、ここ駿州に息づいています。200年の時を越え、「旅の原点」との出会いを駿州でお楽しみください。

駿州の旅日本遺産推進協議会



日本初! 「旅ブーム」を起こした
弥次さん喜多さん 駿州の旅
日本遺産エリアMAP



32 大慶寺 久遠の松
日蓮上人お手植えの「久遠の松」は樹齢750年と推定される巨木。

33 鮑波神社大祭の奉納踊り
江戸風の粋な風情のなごりを伝え、地域を挙げての賑わいとなる。

34 瀬戸の染飯
蒸した糯米を梶子で黄色く染めて干したものを。旅人に評判だった。

35 東海道松並木(上青島地区)
江戸時代以降も、松を植えて街道の景観を守り伝えている。



31 史跡田中城下屋敷
同心円形の特徴的な縄張で、守りが固い城として知られる。

30 東海道松並木(内谷地区)
藤枝宿へと向かう街道沿いの松並木(約560m)。



29 岡部宿本陣址
岡部宿の本陣跡地。現在は門などが再現され、史跡広場となっている。

27 十石坂観音堂
江戸時代後期の火災でお堂だけが残り、当時の様子を伝えている。



26 羅徑記碑
「羅徑」とは「葛の道」のこと。風雅な地であることを顕彰する石碑。

25 坂下地藏堂
峠にまつわる地藏信仰や、村人を助ける伝説があり、篤く信仰された。

24 葛の細道
宇津ノ谷峠越えの最古のルートとされ、当時の面影を感じる山道。

■宿場間の距離

藤枝宿	岡部宿	宇津ノ谷峠	丸子宿	府中宿	江尻宿	興津宿	薩埵峠	由比宿	蒲原宿
6.8	3.3	4.5	5.7	10.6	4.1	4.3	4.9	3.9	

※単位:km(概算の距離を表示しています)

各エリアのプロモーション映像や駿州の旅古地図デジタルマップの情報はコチラ

駿州の旅 日本遺産 YouTube チャンネル

Stroly 古地図で巡る駿州の旅



東海道五拾三次之内岡部 宇津之山 (藤枝市郷土博物館所蔵)



23 明治宇津ノ谷隧道
日本初の有料トンネルといわれ、技術的にも高く、近代化の象徴。

21 十団子
団子は、旅の饗に姿を変えた地蔵尊が、鬼を退治した伝説に由来する。

20 間の宿宇津ノ谷
宇津ノ谷峠の東に位置し、江戸時代の間の宿の風景をしのぼせる。

19 慶龍寺
かつて宇津ノ谷峠の地藏堂にあった地蔵尊を祀る。

17 丸子宿名物とろろ汁
とろろ汁は、すり下ろした山芋を味噌汁で伸ばす点が特色。

15 府中宿名物安倍川もち
茶屋で売られた宿場名物。広重の浮世絵にも茶屋が描かれる。

14 府中宿(駿府九十六ヶ町)
東海道最大の宿場町。現在も静岡県の中心地として賑わう。

13 江尻宿名物 追分羊かん
館を竹皮で包み、竹皮ひもでむすび蒸しあげる昔ながらの味。

12 三保松原
世界遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉-」として知られる。

11 清見寺
徳川家康公ともゆかり深い、風光明媚な東海道屈指の名刹。



1 蒲原宿
江戸品川宿から15番目の宿、富士川を越えて一息つく宿場。

2 旧和泉屋(お休み処)
お休み処として訪ねることができ、旅籠の面影を感じることができる。

3 志田家住宅主屋
典型的な町屋の造り。建物や道具類が江戸の暮らしを伝える。



5 由比宿
16番目の宿、名勝薩埵峠の東にあって峠越を目指す宿場町。

4 木屋江戸資料館(渡邊家土蔵)
3000点を越す古文書等が収蔵された1839年建築の3階建ての土蔵。

6 静岡市東海道広重美術館
広重の名作など約1400点を収蔵。浮世絵芸術を堪能することができる。



7 由比宿名物たまご餅
由比川のほとりで作られていた街道名物。当時はさとう餅と呼ばれていた。



8 間の宿西倉沢
富士山の眺めが素晴らしい場所で、立ち寄る人も多く、茶屋が繁盛した。



9 東海道名主の館(小池家住宅)
村の「名主」だった小池家。地域の有力者らしい重厚な佇まいである。



16 静岡浅間神社
2100年もの歴史を持つ駿河国の総社。豪壮華麗な社殿(26棟)は国重要文化財。



10 薩埵峠
峠越えの道は危険な断崖絶壁。「親知らず子知らず」の難所といわれた。